

会長の時間

【2つのモットー】

1) 最もよく奉仕するも者、最も多く報いられる「He profits most who serves best」

⇒1902年にシェルドンによって、販売学の教科書に書かれたセールス成功の論理。

2) 超我の奉仕「Service above self」

⇒1911年のポートランドで開催された「第2回全米ロータリークラブ連合会」でフランクコリンズによって発表され、1950年のデトロイト国際大会でロータリーの「公式標語」として採択された。

(注) 採択決議案 10-165により、ロータリーの第二の標語の表現は「One Profits Most Who Serves Best (最もよく奉仕する者、最も多く報いられる)」に変更されました。

奉仕の理念と2つのモットー

ロータリーには二つの奉仕理念があります。一つは他人のことを思い遣り、他人のために尽くそうという国際社会を含んだ対社会的奉仕活動に関する理念であり、私たちはこれを **Service above self** というモットーで現しています。もう一つは科学的かつ道徳的な経営方針によって、自分の事業や同業者の事業の発展を図ると共に、業界全体のモラルを高めていこうという職業奉仕の理念であり、私たちはこれを **He profits most who serves best** というモットーで現しています。ロータリーにとってもっとも大切なこの二つの奉仕理念を定義している唯一のドキュメントが、この決議 23-34 なのです。

(2680地区 PDG 田中 猛/社会奉仕「決議 23-34の徹底的分析」より引用)

「忘己利他」と「自利利他」

ロータリーを創立したのはポール・ハリス氏ですが、ロータリーの理論構築・理論提唱をしたのは後のコリンズ氏でありシェルドン氏であると言われていています。前者は「超我の奉仕」を、後者は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」を提唱し、それらは我々が今も絶対的に信奉するロータリー・モットーそのものであります。

日本古来には前述の2つの言葉と、内容がほぼ同じ言葉が存在し、広く知られています。即ち「忘己利他」と「自利利他」であります。特に職業奉仕の意味するところは「自利利他」そのものであると確信しています。資本主義社会に住む我々は「倫理観を常に持ち、物を作り、適正な利潤を得てそれを売り、消費者を喜ばす」の形態こそ最も望むべき姿ではないでしょうか。言い換えれば「右手にソロバン、左手に論語を持って商売をする」姿であろうかと思えます。

(2690地区 PDG 伊藤 文利/ガバナー月信「職業奉仕月間によせて」より引用)

短期交換学生歓迎会



ユ一・チン・リッさん、リディア・ガウンさん、伊藤友咲さん、前波礼奈さん